

科目分類	専門職の教育			開講学科	看護学科
科目番号	学年	担当セメスター	区分	単位数	授業時間数
73104	1	前期	必修	1	30
授業科目名 (英文)	基礎看護援助方法 I (看護技術の基本) (Basic for Evidence Based Practice I)				
担当教員名	宮本 千津子/安藤 瑞穂/平田 美和/大西 淳子				
授業の概要及び到達目標					
<p>授業概要</p> <p>本科目では、看護の対象である人の身体と生活の機能を援助する目的と方法の基本的考え方について理解し、多くの対象に共通して活用される基礎的な身体と生活機能の観察および日常生活援助技術を実施する力を演習を通して獲得することを目指す。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の基本的な身体状況、生活機能を観察、評価する方法の 1 つであるフィジカルアセスメントの意義を体の仕組みと働きと関連づけて説明できる。 2. フィジカルアセスメントの具体的な方法であるバイタルサインの観察・測定、フィジカルイグザミネーション技術(呼吸器系、循環器系)、問診・インタビューの方法を理解し、実施できる。 3. 看護における日常生活援助技術の基本となる、対象の安全、安楽を守る技術(感染予防、ボディメカニクス、環境を整える技術、活動と休息を整える技術、移乗・移送)について理解し実施できる。 					
準備学習等					
<p>予習復習について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 9～13 回に関しては、「体の仕組みと働き」の「循環器系」「呼吸器系」の授業内容、授業資料等を復習した上で臨むこと。 ・講義・演習は学生の予習を前提として行うため、事前課題に必ず取り組んだ上で臨むこと。 ・ナーシングスキルの該当箇所を視聴し、予習・復習に活用すること。 					
成績評価の方法	<p>筆記試験 (50%)、実技試験 (10%)、演習前課題 (演習準備状況) および参加度 (40%) とし総合的に評価する。</p> <p>※筆記試験が 60%未満の場合は再試験となる。筆記再試験が 60%未満の場合は単位修得ができない。</p>				

テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・茂野香おる他,「系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[2]基礎看護技術 I」第 17 版,医学書院,2019. ・任 和子他,「系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3]基礎看護技術 II」第 17 版,医学書院,2017
参考図書	授業の中で提示する
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は基礎看護援助実習Ⅱ(2年次)の履修前提条件となる。 ・オフィスアワーは、履修案内の看護学科「オフィスアワー」の項をご参照ください。
授 業 計 画	
<p>第 1 回 : オリエンテーション、EBP の意義について、看護技術の基本①感染予防 (手洗い)</p> <p>第 2 回 : 看護技術の基本②ボディメカニクス</p> <p>第 3 回 : 看護技術の基本③環境</p> <p>第 4 回 : 看護技術の基本④活動と休息を整える援助</p> <p>第 5 回 : 体位変換、体位保持</p> <p>第 6 回 : 移乗・移送</p> <p>第 7 回 : (前半) 臥床患者のシーツ交換 (後半) 看護におけるフィジカルアセスメント、生活機能の観察の意義 フィジカルイグザミネーションの基本技術 (視診、触診、打診、聴診の技術)</p> <p>第 8 回 : 問診・インタビュー (情報収集におけるコミュニケーション技術) バイタルサイン① : 意識状態のアセスメント</p> <p>第 9 回 : バイタルサイン② : 循環 (脈拍・血圧)</p> <p>第 10 回 : バイタルサイン③ : 体温、血圧測定のデモンストレーション、演習</p> <p>第 11 回 : バイタルサイン④ : 呼吸、呼吸器系 (気管・肺) のフィジカルアセスメント</p> <p>第 12 回 : バイタルサイン測定・評価・報告</p> <p>第 13 回 : 循環器系 (心臓・血管系) のフィジカルアセスメント</p> <p>第 14 回 : 呼吸器系 (気管・肺) のフィジカルアセスメント</p> <p>第 15 回 : バイタルサイン測定・評価・報告 循環器系 (心臓・血管系) のフィジカルアセスメント</p> <p>※授業の進捗状況により変更する場合があります。</p>	